

令和6年度指導教諭による「授業力アップ講座」⑤⑥

今号では、10月に実施された2つの授業力アップ講座を紹介します。

10月8日(火) 平泉町立平泉中学校

講義・演習「『論理的思考』『批判的思考』につながる授業」

講師 今野 満江 先生

講義・演習

自作教材の説明文を使い、研修者が中学生の気持ちになって読み、それぞれの考えを交流する演習から入りました。筆者の論調や読者が考えたイメージだけで解釈するのではなく、批判的思考を働かせながら読み取ることの大切さを考えることができました。



次に『論理的思考』と『批判的思考』の捉え方について講義がありました。学習指導要領の記載を根拠に、その大切さについて改めて確認することができました。その中で、中学生は「批判的」というワードについて「対立する」「非難する」というイメージがあり、それを払拭する必要があることなども話題となりました。

最後は、普段の授業づくりについて自由に意見交流する時間もあり、研修者全員で悩みを共有しながら改善方法について協議する有意義な時間となりました。

👉 今野先生から学ぶ

国語の授業のポイント！

- ◆学習課題に「本当か」「なぜか」を取り入れて生徒が主体的に考える授業を組み立てること。
⇒論理的思考と批判的思考の育成につながる。

参加者の声（一部抜粋）

- ・最近あまりじっくり考えていなかった国語の指導について、腰をすえてじっくり向き合えた時間でした。
- ・本当の意味で丁寧に読むということを学んだ気がしました。また、生徒自身の疑問やひらめきから課題を考えることの効果や方法についても学習することができました。
- ・授業体験を通して、1つの教材を多面的に捉えることができました。

10月16日(水) 奥州市立岩谷堂小学校

LD等通級指導教室「自立活動」

授業者 柴山 佑美 先生

提案授業

「読み書きや会話をする活動を通して、最後まで意欲的に学習することができる」という目標のもと、LD等通級指導教室の自立活動の授業提案がありました。「スリーヒントクイズ」や「くじトーク」、「書きしりとり」「10でゴール」など、様々な活動やゲームを取り入れる中に子どもたちが「書く」「読む」「手先を動かす」などの活動を自然に行う仕掛けがたくさんありました。



笑顔で活動している児童たちの姿がとても印象的でした。

研究協議

本時の授業についてだけではなく、「書く量」や「体を動かした活動例」などについて質問がありました。柴山先生からは多くの実践やコンテンツを紹介していただきました。音読の時は砂時計が有効という話も目からウロコでした。

協議の最後は、研修者から指導上の悩みや困り事を出していただき、それに対する助言をいただく有意義な時間となりました。

👉 柴山先生の授業から学ぶ

特別支援の授業のポイント！

- ◆苦手な「改善」⇒ 苦手な「補う」授業づくり。
(得意なところに目を向ける)
- ◆子どもの願いを聞き取り、授業のめあてにする。

参加者の声（一部抜粋）

- ・様々な活動例を知ることができたので、早速明日から取り入れてみたい。
- ・授業の流れが子どもたち目線でわかりやすく、安心して授業に臨むことができていると感じました。
- ・柴山先生のもっている引き出しをたくさん教えていただきました。先生の前向きで穏やかな声掛けを参考にしたい。